

プログラムの訂正について（追加）

先にご案内した訂正に加えて、プログラム本文に下記の通り3点訂正がありますのでご案内いたします。

1. 自由報告 A1 のタイトル中の「機会」は、正しくは「機械」でした。訂正をお願い申し上げます。
2. テーマセッション A の中島会員の報告要旨中の「私欲」は、正しくは「止揚」でした。訂正をお願い申し上げます。
3. テーマセッション A の川端浩平氏の報告要旨が、同テーマセッション A の中島学会員の報告要旨と同様になっています。川端氏の正しい報告要旨は下記の通りです。

みなさまには度重なるご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げますとともに、川端氏の報告要旨につきましては下記の通り訂正をお願い申し上げます。

（誤）

5. ポスト工業化時代と文化表現——在日コリアン・ラッパーの生活史から——

川端 浩平（津田塾大学）

SIB (Social Impact Bond) といった成果主義に基づく処遇プログラムは、「数値化と標準化」を促進し、そのような「物象化」が当人らを学校や社会、家庭からの排除を促し、その「生きづらさ」がそれぞれの逸脱の一因であることを明らかにする。その上で、「数値化と標準化」の対極にこれまでの矯正教育があり、そこで展開されてきた、集会や作文・日記指導等が、当事者自身が「ことばの獲得」ともいえる、意見表明できる力の獲得を促進してきたことを再確認し、そのような取組が当事者の「物象化」等の排除の理論との私欲を凶れるか検討する。

（正）

5. ポスト工業化時代と文化表現——在日コリアン・ラッパーの生活史から——

川端 浩平（津田塾大学）

グローバル化と新自由主義の台頭はポスト工業化を進展させるとともに、雇用の流動化と労働のあり方の変容にともない社会的な格差や分断を可視化している。このような社会的状況の中で新旧の移民たちによって紡がれるラップ音楽が注目されている。本報告では、ある川崎の在日コリアン・ラッパーの生活史をもとに彼の音楽と言葉が描き出す世界観について考察し、「持たざる者」たちの多様性をめぐる想像力の重要性を明らかにする。